

丸型打込(圧入)式オイルゲージ

KD.KC型
(KDM.KCM型)

RoHS適合品

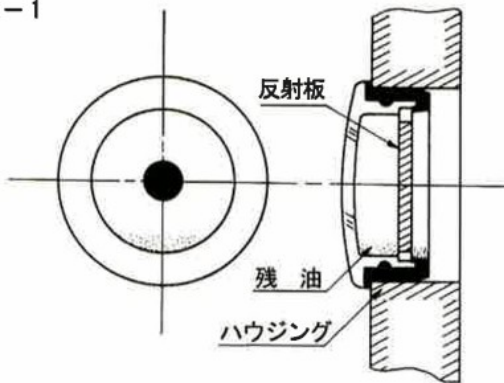


製品説明と特徴

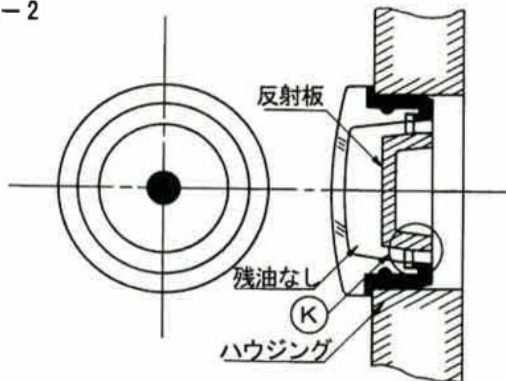
協和のオイルゲージは各型式で、それぞれ優れた特徴をもっていますが、丸型オイルゲージには次の共通の特徴があります。それは、従来、機械のオイルタンク内部に油が無くなっても、(A-1)図でわかるように、一部に油が残り、オイルタンク内に油が入っているような錯覚を起しやすいためにあります。この丸型の一つの欠点である、オイルゲージの底部に油が残る現象は、どうしても逃れられない事実です。そのため、油が切れて事故を起こす原因にもなりました。このような欠点を無くすべく、設計したのが(A-2)図に示す油の誘導部Kです。これにより、残油をオイルゲージの外部へ自動的に誘導、残油のための錯覚を無くし、油切れを防止します。

また、オイルゲージ内部にセットされた反射板は白色に設定。そのためもあって、ゲージ室内は明るく、油の有無を遠くからでも確認できます。なお、この反射板は同時に文字板にもなっていますので、白地に朱色の文字がくっきりと浮き出て見えるエレガントなデザインは、取り付けられたマシンを引き立たせることでしょう。

A-1



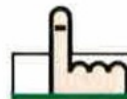
A-2



KD型 (KDM型)



KC型 (KCM型)



取り付け方法

■協和のオイルゲージは、取り付け穴の内径公差H7またはH8というような、厳しい精度は必要としません。それはすでにゲージの外径に0.3~0.5程度の締代がついているからです。これは一般機械加工での精度では考えられないことですが、パッキンの材料に耐油性、耐老化性、弾力性等に優れた合成ゴムを用い、また、ゲージの本体には耐油、耐熱、耐衝撃性に強いポリカーボネート樹脂を使用しているため、圧力0.2MPa以内では耐えられるのです。

■取り付け穴の精度は、寸法表に示すB-0~+0.1で加工し0.3~0.5R程度の面取りをした上でゲージを圧入して下さい。

△なお、圧力の強い時はストップリングを取り付けて下さい。

■オイルゲージを挿入する時は、必ずゴムの周辺にグリースまたはオイルを塗り、手で押し込みます。その後は木槌か当て板を用いて、全面を静かにたたきながら、水平に根本まで打ち込んで下さい。

△急激に直接金槌で強くたたくと、表面が傷つく恐れがあります。(但し、破損することはありません) 当木の使用をお勧めします。

△オイルゲージ挿入後、周囲の塗装をする時は必ずオイルゲージを覆って下さい。